

がん相談支援センター相談員
指導者研修 前期日程

研修企画・運営
事前課題 Eラーニング
【企画編】



主催：国立がん研究センターがん対策研究所

<2024年4月収録>

※本資料に掲載されているURL等の情報は随時更新されており、既に古くなっている可能性があります。
必要に応じて、キーワードで検索する等の対応をお願いします。

これからの内容

1. 指導者研修の概要
2. 指導者研修受講者に期待すること
3. 研修企画に必要な知識
 - ① ねがい
 - ② 研修企画のステップ1～3
 - ③ 成人学習者の特徴
 - ④ 教育目標分類学（タキソノミー）
 - ⑤ 研修の形態と特徴（講義・演習）
 - ⑥ オンライン研修

これからの内容

- 1. 指導者研修の概要
- 2. 指導者研修受講者に期待すること
- 3. 研修企画に必要な知識
 - ① ねがい
 - ② 研修企画のステップ 1～3
 - ③ 成人学習者の特徴
 - ④ 教育目標分類学（タキソノミー）
 - ⑤ 研修の形態と特徴（講義・演習）
 - ⑥ オンライン研修

1

3

指導者研修のねらい

都道府県における相談支援機能の強化に向け、地域の現状、課題、問題を把握し、それらの解決や質の向上のための研修を企画・実施・評価ができる指導者育成を目指す

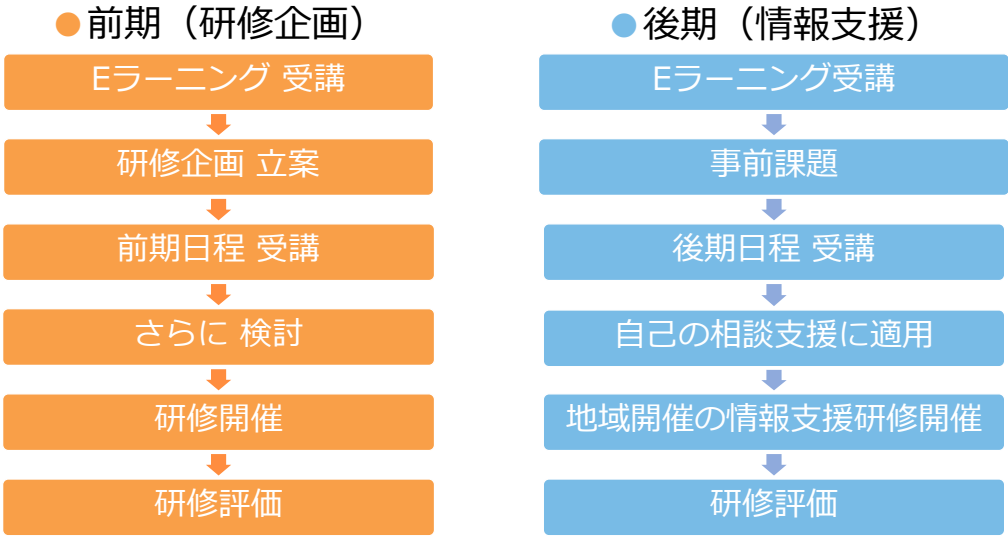
がん診療連携拠点病院の整備に関する指針（令和4年8月1日）

- 都道府県における相談支援機能強化に向けた要件
 - （2）（省略）相談支援に携わる者のうち、**少なくとも1人は**国立がん研究センターによる**相談員指導者研修を修了**していること。
 - （4）当該 都道府県の拠点病院等の相談支援に携わる者に対する**継続的かつ系統的な研修を行う**こと。
- 地域がん診療連携拠点病院の指定要件
 - ⑦がん相談支援センターの相談支援に携わる者は、（省略）都道府県拠点病院が実施する相談支援に携わる者を対象とした研修を受講すること。

「施設」から「地域」へ、「地域全体」で連携、協力

4

指導者研修の全体像



5

前期（研修企画）の目的・学習目標

目的

1. 相談支援に携わる者に対する継続的かつ系統的な研修を企画・運営するために必要な知識を学ぶ。
2. 地域の現状、課題・問題を明確化し、相談の質を維持・向上するための研修企画を立案する。

学習目標

1. 研修企画を学ぶ必要性、意義を述べる
2. 地域における現状や課題を明確化し研修テーマを導き出す
3. 研修の目的、学習目標の設定の重要性を認識する
4. 研修の形態の種類とその特徴を説明する
5. 成人学習者の特徴を5つ列挙する
6. 研修評価の種類と意図を区別する
7. グループワークは積極的に参加し、メンバーの意見も尊重する
8. 学んだ知識を活用しステップに基づき研修企画を立案、洗練する

6

これからの内容

1. 指導者研修の概要
- 2. 指導者研修受講者に期待すること**
3. 研修企画に必要な知識
 - ① ねがい
 - ② 研修企画のステップ 1 ～ 3
 - ③ 成人学習者の特徴
 - ④ 教育目標分類学（タキシノミー）
 - ⑤ 研修の形態と特徴（講義・演習）
 - ⑥ オンライン研修

7

がん相談支援センター誕生の背景 1

2005年（平成17年頃）

- がんは第一位の死亡原因
 - 国民の健康にとって重大な脅威
- 医療サービスに対する国民・患者の不満足感
 - ・医療情報の不足感
 - ・施設間格差、地域格差
 - ・緩和・在宅・終末期医療の整備の不十分さ
- 最新医薬品の提供に関する問題 など

厚生労働省「がん対策推進アクションプラン2005」
緊急にがん対策の飛躍的な向上を目指す

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/gan01/pdf/01.pdf>

8

がん相談支援センター誕生の背景 2

●がん対策推進アクションプラン2005

がん対策推進本部 平成17年8月25日

- ・ 国民・患者の視点から総点検、ニーズに応じた対策を推進
- ・ 国民・患者のがん医療に対する不安や不満の解消を推進
- ・ 国民・患者の意識やニーズ、がん医療の実態を反映した情報提供

正確な情報に基づく支援
役立つ情報の提供



「がん情報提供ネットワーク」の構築

- ・ 相談支援センター設置
- ・ がん対策情報センター設置
(現：がん対策研究所)

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/gan01/pdf/01.pdf>

9

がん相談支援センターの設置目的・機能

1. 設置目的

患者及びその家族の不安や疑問に適切に対応できるよう、現行の地域がん診療拠点病院に設けられている医療相談室の機能を強化し、新たに「相談支援センター（仮称）」を設置する。

2. 機能

相談支援センター（仮称）は、院内外の医療従事者の協力を得て、地域の医療機関や患者からの相談に対応する。

がん対策推進の「要」として、希求された

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/gan01/pdf/01.pdf>

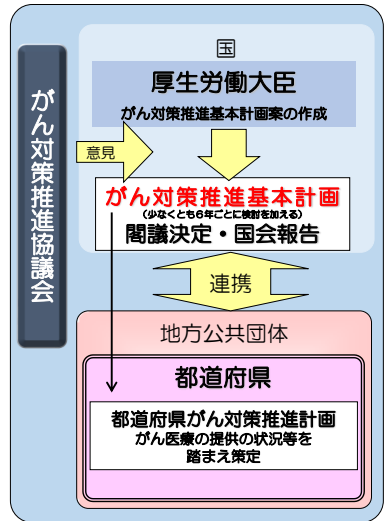
10

がん対策基本法

(平成18年法律第98号)

(平成18年6月成立、平成19年4月施行、平成28年12月改正・施行)

がん対策を総合的かつ計画的に推進



第一節：がん予防及び早期発見の推進

- がんの予防の推進
- がん検診の質の向上等

第二節：がん医療の均てん化の促進等

- 専門的な知識及び技能を有する医師その他の医療従事者の育成、医療機関の整備等
- がん患者の療養生活の質の維持向上
- がん医療に関する情報の収集提供体制の整備等

第三節：研究の推進等

- がんに関する研究の促進並びに研究成果の活用
- 罹患している者の少ないがん及び治療が特に困難であるがんに係る研究の促進等

第四節：がん患者の就労等

- がん患者の雇用の継続等
- がん患者における学習と治療との両立
- 民間団体の活動に対する支援

第五節：がんに関する教育の推進

- 学校教育等におけるがんに関する教育の推進

第4期がん対策推進基本計画（令和5年3月28日閣議決定）概要

第1. 全体目標と分野別目標 / 第2. 分野別施策と個別目標

全体目標：「誰一人取り残さないがん対策を推進し、全ての国民とがんの克服を目指す。」

「がん予防」分野の分野別目標
がんを知り、がんを予防すること、がん検診による早期発見・早期治療を促すことで、がん罹患率・がん死亡率の減少を目指す

1. がん予防

- (1) がんの1次予防
 - ①生活習慣について
 - ②感染症対策について
- (2) がんの2次予防（がん検診）
 - ①受診率向上対策について
 - ②がん検診の精度管理等について
 - ③科学的根拠に基づくがん検診の実施について

「がん医療」分野の分野別目標

適切な医療を受けられる体制を充実させることで、がん生存率の向上・がん死亡率の減少・全てのがん患者及びその家族等の療養生活の質の向上を目指す

2. がん医療

- (1) がん医療提供体制等
 - ①医療提供体制の均てん化・集約化について
 - ②がんゲノム医療について
 - ③手術療法・放射線療法・薬物療法について
 - ④チーム医療の推進について
 - ⑤がんのリハビリテーションについて
 - ⑥支持療法の推進について
 - ⑦がんと診断された時からの緩和ケアの推進について
 - ⑧妊産性温存療法について
- (2) 希少がん及び難治性がん対策
- (3) 小児がん及びAYA世代のがん対策
- (4) 高齢者のがん対策
- (5) 新規医薬品、医療機器及び医療技術の速やかな医療実装

「がんとの共生」分野の分野別目標

がんになっても安心して生活し、尊厳を持って生きることのできる地域共生社会を実現することで、全てのがん患者及びその家族等の療養生活の質の向上を目指す

3. がんとの共生

- (1) 相談支援及び情報提供
 - ①相談支援について
 - ②情報提供について
- (2) 社会連携に基づく緩和ケア等のがん対策・患者支援
- (3) がん患者等の社会的な問題への対策（サバイバーシップ支援）
 - ①就労支援について
 - ②アピアランスケアについて
 - ③がん診断後の自殺対策について
 - ④その他の社会的な問題について
- (4) ライフステージに応じた療養環境への支援
 - ①小児・AYA世代について
 - ②高齢者について

4. これを支える基盤

- (1) 全ゲノム解析等の新たな技術を含む更なるがん研究の推進
- (2) 人材育成の強化
- (3) がん教育及びがんに関する知識の普及啓発
- (4) がん登録の利活用の推進
- (5) 患者・市民参画の推進
- (6) デジタル化の推進

第3. がん対策を総合的かつ計画的に推進するために必要な事項

- 1. 関係者等の連携協力の更なる強化
- 2. 感染症発生・まん延時や災害時等を見据えた対策
- 3. 都道府県による計画の策定
- 4. 国民の努力
- 5. 必要な財政措置の実施と予算の効率化・重点化
- 6. 目標の達成状況の把握
- 7. 基本計画の見直し

第4期がん対策推進基本計画（令和5年3月閣議決定）分野別施策の概要
3. がんとの共生

(1) 相談支援及び情報提供

【現状・課題】

- 多様なニーズに対応するため、がん相談支援センターの機能や対応範囲を検討し、地域の実情に応じた集約化や役割分担を行うことが必要である。
- 全ての患者や家族等、医療従事者等が、正しい情報にアクセスできる環境の整備が重要である。

【取り組むべき施策】

- 多様化・複雑化する相談支援のニーズに対応できる質の高い相談支援体制の整備、オンラインの活用等による持続可能な相談支援体制の整備
- 拠点病院等と民間団体やピア・サポーター等との連携、ICTや患者団体、社会的人材リソース等を活用した相談支援の充実
- 要配慮者を含む患者や家族等のニーズや課題等の把握、「情報の均てん化」に向けた情報提供の在り方の検討

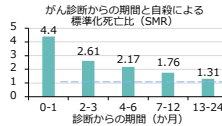
(3) がん患者等の社会的な問題への対策（サバイバーシップ支援）

【現状・課題】

- 働く世代のがん患者の離職防止や再就職への就労支援の充実が必要である。
- 治療に伴う外見変化に対する医療現場のサポートの重要性が認識されている。
- 医療従事者等による自殺リスクの高い患者への適切な支援が必要である。
- その他の社会的な問題として経済的課題など様々ながん医療への障壁が指摘されている。

【取り組むべき施策】

- 現在の両立支援制度の効果及び課題の明確化、それを踏まえた施策の強化や医療機関等と産業保健との連携、普及啓発等に係る検討
- 様々な就労形態のがん患者の就労・離職の実態把握、それを踏まえた就労支援の提供体制の検討
- 拠点病院等を中心としたアピアランスケアに係る相談支援・情報提供体制の構築
- がん患者の診断後の自殺リスクや経済的課題等の把握、課題解決に向けた施策の検討



出典：Kurisu K, Fujimori M et al., Cancer Med 2022

(2) 社会連携に基づく緩和ケア等のがん対策・患者支援

【現状・課題】

- 拠点病院等と地域の医療機関が連携して、相談支援、緩和ケア、セカンドオピニオン等を推進し、患者や家族等を支援することが必要である。

【取り組むべき施策】

- 都道府県がん診療連携協議会において、セカンドオピニオンや、緩和ケア及び在宅医療等に関する情報提供の在り方等の検討
- 地域包括ケアシステムの仕組みも踏まえ、拠点病院等を中心とした施設間の連携・調整を担う者の育成

(4) ライフステージに応じた療養環境への支援

【現状・課題】

- 成人でがんを発症した患者とニーズや課題が異なる小児・AYA世代のがん患者・経験者に対し、切れ目ない支援が必要である。
- 小児・AYA世代のがん患者の在宅での療養環境の整備が必要である。
- 高齢のがん患者に対し、身体的状況や社会的背景に合わせた配慮や、家族等に対する早期の情報提供・相談支援体制等が必要である。

【取り組むべき施策】

- 療養中の教育支援体制の整備、遠隔教育の実態把握
- 長期フォローアップや晩期合併症等の支援体制等の構築、小児・AYA世代の療養環境の実態把握と体制整備に向けた関係省庁を連携した検討
- 高齢のがん患者の課題の把握、地域における療養の在り方や再発・二次がん・併存疾患のフォローアップ体制の構築、意思決定支援等の取組の検討

がん相談支援センターの業務内容

① がんの予防やがん検診に関する情報の提供

② がんの治療に関する一般的な情報の提供

ア がんの病態や標準的治療法、 イ 自施設で対応可能ながん種や治療法等の診療機能、連携する医療機関、
ウ アスベストによる肺がん及び中皮腫、 エ HTLV-1関連疾患であるATL
オ セカンドオピニオンの提示が可能な医師や医療機関の紹介、 カ 高齢者のがん治療、 キ 患者の治療や意思決定

③ がんとの共生に関する情報の提供・相談支援

ア がん患者の療養生活、 イ 就労、 ウ 経済的支援、 エ 小児がんの長期フォローアップ、 オ アピアランスケア

④ その他

ア 地域の医療機関におけるがん医療の連携協力体制の事例に関する情報収集・提供
イ 医療者と患者会等が共同運営するサポートグループや患者サロンの定期開催等の患者活動に対する支援
ウ 相談支援に携わる者に対する教育と支援サービス向上に向けた取組、 エ その他、相談支援に関すること

○以下に示す項目については自施設での提供が難しい場合には、適切な医療機関に紹介すること。

- ①がんゲノム医療に関する相談
- ②希少がんに関する相談
- ③AYA世代にあるがん患者に対する治療療養や就学、就労支援に関する相談
- ④がん治療に伴う生殖機能への影響や、生殖機能の温存に関する相談
- ⑤障害のある患者への支援に関する相談

（出典）厚生労働省「がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針に関するQ & Aについて」（令和4年9月22日事務連絡）

相談員のための研修を企画する理由

● 社会福祉士の倫理綱領（2020.6）・行動規範（2021年3月）

IV 専門職としての倫理責任

<https://jacs.w.or.jp/citizens/rinrikoryo/>

- 1. 専門性の向上 社会福祉士は、最良の実践を行うため必要な資格を所持し**専門性の向上に努めなければならない。**
- 1-1 社会福祉士は、**研修・情報交換・自主勉強会などの機会**を活かして、**常に自己研鑽に努めなければならない。**
- 1-2 社会福祉士は、常に自己の専門分野や**関連する領域の情報に精通するよう努めなければならない**

● 看護職の倫理綱領（2021.3）

<https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/rinri/rinri.html>

8.看護職は、常に、個人の責任として継続学習による能力の開発・維持・向上に努める。

看護職には、科学や医療の進歩ならびに社会的価値の変化にともない多様化する人々の健康上のニーズに対応していくために、高い教養とともに高度な専門的能力が求められる。高度な専門的能力をもち、より質の高い看護を提供するために、免許を受けた後も**自ら進んでさまざまな機会を活用し、能力の開発・維持・向上に努める**ことは、看護職自らの責任ならびに責務である。（途中省略）また、**自己の能力の開発・維持・向上のみならず、質の高い看護の提供を保障するために、後進の育成につとめることも看護職の責務**である。

これからの内容

- 1. 指導者研修の概要
- 2. 指導者研修受講者に期待すること
- 3. 研修企画に必要な知識
 - ① ねがい
 - ② 研修企画のステップ1～3
 - ③ 成人学習者の特徴
 - ④ 教育目標分類学（タキソノミー）
 - ⑤ 研修の形態と特徴（講義・演習）
 - ⑥ オンライン研修

なぜ、研修企画に必要な知識を学ぶのか

- 多くの者は、専門領域の知識・技術は学んでいるが教育的な知識を学ぶ機会がないまま勉強会を企画したり、後輩指導や研修講師を担っている
- 研修企画に必要な知識を学ぶと
 - 受講者に最適な学習環境を提供し、有意義で効果的な学びを提供することができる
 - 後輩指導や院内教育などにも生かすことができる

単に知識を伝達するだけでなく、受講者が自ら考え、発見し、より深く関心をもつきっかけとなるような研修を目指したい

学んだことに満足するだけでなく、実践できること（学びの効果の持続・行動変容）を目指したい

17

研修企画にまず大切なこと

それは、 **ねがい** = **目指す相談員像** です



●ねがいとは何か

- ・企画者が大切にしている価値観、ビジョン、理念
- ・受講者や地域の相談員への期待
- ・抽象度は高くてOK
- ・普遍的、どんな相談においても共通

●ねがいを例えると

- ・背骨のようなもの＝基盤となるもの
- ・植物でいえば「根っこ」

●思い込みや一方的な押しつけ、ではない

- ・現実的か？
- ・患者、家族のニーズに合致しているか？
- ・地域や時代のニーズに合致しているか？
- ・がん専門相談員の役割に合致するか？
- ・地域の相談員のニーズに合致しているか？
- ・地域のがん対策方針、特性に合致しているか？

●必ず固定しないとならない？

- ・時代の要請、受講者の実態により変化
- ・価値観や信念などの中核部分は変化しない

●ねがいの違いは、受講者の成長の違いとなる

- ・研修の方針や内容に違い
- ・研修の満足度、学習成果や受講者の成長に違い

18

がん相談支援センターがめざすもの

- がん相談支援センターは、院内外のがん患者・家族ととりまくすべての人々が原則無料で、必要に応じて匿名で、相談できることで、**相談者が孤立することなく、困りごとに対して対処する術を提供する場所**である。
- 相談支援センターの活動は、**相談者の「知る権利」「選ぶ権利」「自分らしく生活する権利」を守り、エンパワメント**するために行われるものであり、**がんのすべてのフェイズについての信頼できる情報を集積し、提供する。**
- 相談員の役割は、**相談者に寄り添い、困りごとの本質をともに考え**、相談者が十分に情報を得て、**納得して治療を受ける**ことができ、就労なども含む**社会的な関係を保ちながら生活していけるよう支援**すること、直接は解決できない困りごとについても、何らかの対処する術についての情報を提供することである。相談員は、実際の診療に関わる医師、看護師からは**中立の立場で、コーディネート、アドボケート、患者・家族の理解を促進するような説明、橋渡し**を行う。また、患者・家族をサポートするための地域ネットワークを構築する。
- このがん相談支援センターや相談員の活動は、「**がんになっても安心して暮らせる社会の構築**」の一翼を担うものである。

都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 情報提供・相談支援部会 がん相談支援センターの活動におけるPDCAサイクルの確保に関するWG報告 19

がん専門相談員の役割

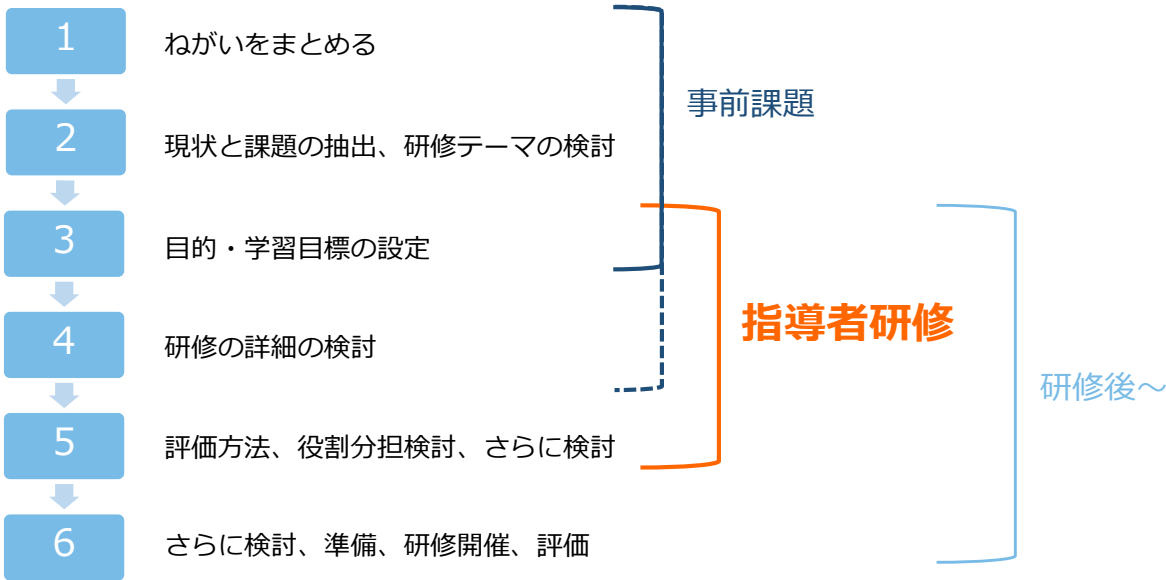
がん患者や家族等の相談者に、科学的根拠と、がん専門相談員の実践に基づく 信頼できる情報提供を行うことによって、その人らしい生活や治療選択ができるように支援する

出典：がん専門相談員のための学習の手引き 第3版

がん専門相談員の役割を効果的に遂行するために



研修企画のステップ



21

ステップ 1

メンバーとねがいを語り、まとめる

語る

まずはシンプルに、自分自身の言葉で、自由に語る
全ての相談に共通するよう抽象度は高く

聴く

- ・メンバーのねがいの理由や思考プロセスに関心を持つ
- ・自身のねがいとの共通点、相違点を見出す
- ・正解や間違いはない、同じ考えでなくていい
- ・多様な意見を尊重する
- ・（熱い）語り合いによってお互いを理解し、一定の合意を得る

- 「あなたに相談してよかった」と感じてもらえる相談員を目指したい
- 安心して相談でき、困り事を共に悩み、考え、具体的な提案ができる相談員の育成をしたい
- × 緩和ケアについて正確に説明できる相談員になりたい
- × 卓越した就労支援ができる相談員を養成したい

22

例) ねがい

■ 目指す相談員像

- 1. まずは、とことん相談者の思いを傾聴し、受けとめ、共感、承認できる相談員
- 2. 相談者が自ら意思決定できるよう支援するために、ニーズに合った信頼できる情報を適切に提供できる

■ 目指す相談員像の背景、理由

- ・ がん種、病期、年齢、家族関係、経済状態、仕事など相談者個々が抱える悩み、心配事は様々である。
- ・ 相談者は自分の状況をうまく伝えられなかったり、支えてもらえる人がなく孤独を感じていたり、治療の選択肢がある中で決定できなかったりする。
- ・ 相談員は、相談者があるがままに受けとめ、共感、傾聴し、潜在するニーズをも共有できるようになって欲しい。また、相談者の情報ニーズを満たすために信頼できる情報を提供することで、相談者が自らの力で意思決定できるよう「そっと支える」そんな相談対応ができる相談員を目指したい。

23

ステップ 2

現状と課題の抽出、研修テーマの検討

1

現状
と
課題

- 1. 地域のがん患者の現状、課題を抽出する
- 2. 地域特性を理解する
- 3. 相談員の現状、課題、学習ニーズを把握する
- 4. 地域のがん対策、地域の教育ニーズを理解する
- 5. 過去に開催された地域の相談員研修の概要と課題を把握する

研修テーマに沿って再構成

2

研修
テーマ
検討

- 1. 解決すべき（できる）課題、学習ニーズ、優先順位を熟慮する
- 2. 論理的に**チーム合意の上で研修テーマを導く**（暫定的でも可）
- 3. 受講者が受講後に「**何がどうできるようになって欲しいか**」、研修の目指す先やゴールを具体的に言語化する（**=アウトカム**）

- ステップ1 ねがいを意識する
- すでにテーマが決まっている場合は、現状と課題を論理的に記述する

※アウトカムとは

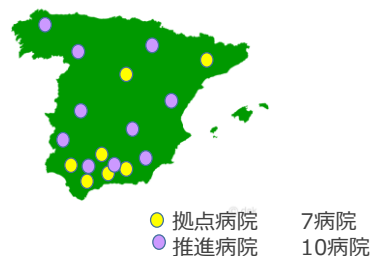
研修の受講や実践を重ねることにより獲得する知識、技能、価値観、態度の統合

24

例) 地域の現状と課題 1

■ ○○県の情報

- ・ 人口 ○○○○○○人（全国3位、下から）
- ・ 県南部に人口の2/3が集中し、医療機関も南部に偏在
- ・ がん罹患数 ○○○○件
- ・ がん死亡者数 ○○○○（○○.○%）死亡原因一位
- ・ 高齢化率 32.74%（全国3位、上から）
- ・ 高齢者夫婦世帯、高齢単身世帯は県総世帯の26%
- ・ 県境と離島は過疎化・高齢化が著しい
- ・ 近年、外国人の住民人口が増加している



■ ○○県のがん対策推進計画

- ・ 基本理念：すべての県民が、がんを知り、がんのうち克つ
- ・ 全体目標：がん患者とその家族が、がんについて正しく知り、尊厳をもって安心して暮らせる社会を目指す
- ・ 最終アウトカム：患者とその家族の治療や療養生活の悩みが軽減する
- ・ 中間アウトカム：相談支援センターが患者やその家族の不安や悩みに対応できる

25

例) 地域の現状と課題 2

■ がん相談支援における現状と課題

- ・ 国指定がん診療連携拠点病院など 7病院
- ・ 県指定がん診療推進病院 10病院
- ・ 相談件数は増えているが、病院間で差があり、相談員の意識の格差もある
- ・ 拠点病院相談員は1、2年で異動となる病院もある。新たな知識の更新だけでなく、コミュニケーションスキルなど相談員として基本的なスキルの担保が必要
- ・ 相談支援センターの職員配置数が少なかったり、特定の職種のみという病院が多く、相談内容によっては対応が難しい、質の担保が難しい

■ 相談員の学習ニーズ（アンケート調査）

- ・ 基本的なコミュニケーションスキルを学びたい
- ・ 様々な背景や年代の患者、家族に対する相談支援の実践について学びたい
- ・ 相談対応の質についてどうしたらよいのか具体的に学びたい
- ・ 県内の相談員同士の交流を図りたい

26

例) 研修テーマ

■優先順位の高い課題、解決すべき課題と理由

- 基本的コミュニケーションや相談対応の質を担保するための研修が必要
- 【理由】 1、2年で異動となる病院が少なくない中、基本的な対応（姿勢や情報ツール）やコミュニケーションスキル、相談対応の評価の視点を学ぶ機会が必要。表面的な主訴だけでなく潜在的な真のニーズにも対応するにはどうしたらよいのか、何をどこまで情報提供すべきかなど話す機会を設けたい。また、人員配置が少ない場合、他施設の相談員と交流し、個々の対応を振り返る研修が大切。これまで研修開催されておらず、学習ニーズにも合致した、相談対応の質保証（QA）を学ぶことをテーマとした研修を開催したい。

■ 今回取り上げる予定の研修テーマ

- ー 相談対応の質保証(QA)を学ぶ ー

■ 受講者に、「何がどうできるようになっていて欲しいか」

- 本研修を受講することにより、相談対応の質の担保、向上に必要な要素を学び、相談員の基本姿勢や役割について理解を深め、コミュニケーション技術や対象理解、ニーズをどのように充足できるか具体的な対応方法を習得できるようになる。この研修の受講により、相談員が「がん相談対応評価表」の評価項目を知り、相談対応の拠り所、基軸を知ること、明日から自信をもって対応できるようになって欲しい。

27

成人学習者の特徴



研修企画に生かす

- 1) 学習者としての自己概念が依存的パーソナリティーから脱却し自己管理性を増大する方向へと変化
- 2) 経験が自他の豊かな学習資源となる
- 3) 学習へのレディネスが生活課題や生活問題から発達する
- 4) 学習への方向付けが学科中心から課題や問題達成中心となる
- 5) 学習への動機付けとして、外部から与えられる報酬や処罰よりも、内発的な要因がより重要となる

- 1) 受講者が**自発的、能動的、主体的**に学べるようにする
- 2) 受講者が**自己の経験**を研修の中で活かせるようにする
- 3) 受講者自身が生活上（職業上）直面する課題に応じ、**学びたい内容を提供**する
- 4) 受講者が抱える**問題や課題の解決、達成**ができるようにする
- 5) 「褒美や罰」より「**関心や知的好奇心**」「**成長したい**」気持ちを尊重

学習目標の達成度向上、学習意欲向上

知る⇔わかる⇔できる⇔教えることができる

Knowls,M.S.; 堀薫夫他監訳: 成人教育の現代的実践, ベタゴジーからアンドラゴジーへ, 鳳書房, 40, 2002.

ステップ
3

目的、学習目標の設定 ①

● 対象を決める

- ・ 相談員基礎研修 1,2,3,受講を条件にするのか
- ・ 他の地域からも受け入れるか（推奨）
- ・ 相談員の経験年数を規定するか？ 国指定の病院以外も対象とするか？

レディネス 受講者の準備状態

レディネスとは、受講者の学習経験、興味・関心、相談経験など

- ・ 受講者のレディネスを揃えると研修の焦点化が可能
- ・ 一方、多様なレディネスが混在するからこそ得られる学習効果がある

受講者層のレディネスを把握し、研修のレベル、構成を考えていく

● 学習内容（内容の諸要素）を導き出す

- ・ 研修テーマに関連する具体的な学習内容、大切な要素を**列挙**
- ・ 内容分析し、**整理**
- ・ 今回の研修で特に取り組みたい内容を**絞り込み**

ステップ2
「何がどうできるようになってほしいか」
を意識して…

企画者は、その**テーマについて学習**することが大切

例）対象、学習内容

■ 対象

- ・ 定員30名（安定した通信環境、集中できる個室、カメラ・マイク付きPCやタブレットが準備できる者）
- ・ 基礎研修(1)(2)を修了した県内の相談員が望ましいが、必須ではない。
- ・ 応募者数によっては、基礎研修未受講であっても、がん相談に対する熱意があれば可。

■ 学習内容（内容の諸要素）

- ・ がん相談対応評価表（目的、意義、ルール、開発経緯）
- ・ 品質管理、品質保証
- ・ Core Values
- ・ 10の原則
- ・ コミュニケーションスキル（相槌、オープンクエスチョン、共感、要約、共有化など）
- ・ 相談支援のプロセス
- ・ 対象者理解
- ・ 真のニーズ
- ・ 信頼のおける情報の提供

ステップ
3

目的、学習目標の設定 ②

● 目的、学習目標を設定する

- 目的、目標は、学習成果、到達目標を現す
- 研修の目的、目標を適切に設定する（研修は目的的、計画的な営み）

研修目的

- 何を学ぶための研修なのか明確に簡潔に表す
- 学習目標を包括的に表す

学習目標

- **何をどこまで学ぶのか、何をどこまで教えるのか**を明示
- 学習目標をすべて達成できたら「何がどうできるようになっていて欲しいか＝アウトカム」につながる
- **学習成果を評価する際の基準**となる

ステップ2

ステップ5

教育目標分類学（タキソノミー）が参考になる

- 認知領域（あたま、Knowledge）
- 情意領域（こころ、Attitude）
- 精神運動領域（からだ、Skill）

31

教育目標分類学（認知領域）

● 知識の記憶と再生、知的能力

講義、討論、実習、読書などで学習

知識	事実と特定の情報を思い起こす。記憶。 （動詞例：定義する、列挙する、想起する、など）	低 高
理解	わかること。素材を記述し、説明する能力 （動詞例：～を用いて説明する、区別する、例を述べる、選択する、など）	
応用	新しい状況の中で知識、情報を活用する能力 （動詞例：適用する、関連づける、用いる、など）	
分析	問題を要素や部分に分解し、再構成、関連や構造を明らかにする能力 （動詞例：分析する、対比する、見つけ出す、関連づける、など）	
総合 統合	部分をまとめて新しい全体を創り上げる能力。 （動詞例：計画する、開発する、作り出す、総合する、など）	
評価	価値や意味を判断する能力。評価する能力。 （動詞例：批評する、評価する、判断する、など）	

32

学習目標の設定のポイント

だいたいOK！
厳密でなくてOK！

- 1. 何を、どこまで学ぶのかを決める
- 2. 3つ領域をバランスよく、レベルに応じた動詞を用いて記述
 - 1つの目標に、1つの行動
 - 現実的、実現できそうなレベルにする
 - 目や耳で確認可能な具体的な行動レベルで表現
 - 単純から複雑へという学習の原理原則を基本

客観的な評価が可能に

ステップ1の「ねがい」
ステップ2の「何がどうできるようになっ
ていて欲しいか」を意識して…

前期（研修企画）の目的・学習目標

- 目的
- 1. 相談支援に携わる者に対する継続的かつ系統的な研修を企画・運営するために必要な知識を学ぶ。
 - 2. 地域の現状、課題・問題を明確化し、相談の質を維持・向上するための研修企画を立案する。

- 学習目標
- 1. 研修企画を学ぶ必要性、意義を述べる
 - 2. 地域における現状や課題を明確化し研修テーマを導き出す
 - 3. 研修の目的、学習目標の設定の重要性を認識する
 - 4. 研修の形態の種類とその特徴を説明する
 - 5. 成人学習者の特徴を5つ列挙する
 - 6. 研修評価の種類と意図を区別する
 - 7. グループワークは積極的に参加し、メンバーの意見も尊重する
 - 8. 学んだ知識を活用しステップに基づき研修企画を立案、洗練する

認知：理解

認知：分析

情意：受容

認知：理解

認知：知識

認知：理解

情意：反応

認知：総合

例) 研修の目的、学習目標

- 目的
- 電話相談事例を通して、がん専門相談員に必要な相談対応の質の保証と向上のための観点を学ぶ
 - また、質保証のための取り組みを施設で実施できるようになる
- 学習目標
- がん相談支援の質の管理と維持に必要な課題を説明する 認知：理解
 - がん相談対応評価表（以下、「評価表」）の目的、意義、ルールを理解しグループ討議において適用する 認知：応用
 - グループ討議では、互いの意見を尊重し合い、積極的に参加する 情意：反応・価値づけ
 - グループ討議で得た学びを自己の相談対応の改善や質の向上に適用する 認知：応用
 - 施設においてがん相談支援の質の管理と維持に必要な課題を分析する 認知：分析
 - 施設で「評価表」を用いた研修を開催する際の効果、課題・問題、解決策を具体的に見つけ出す 認知：分析

37

研修の形態と特徴（講義）

長 所	短 所
- 短時間で大量の知識や情報を直接、大勢に、効率的に伝えられる - 知識習得には、重要な形態 - 受講者の関心が高い場合は効果的	- 知識の伝達が一方的になりがち - 個々の学習者の理解状況に合わせにくい - だらだらしやすい - 学びが記憶に偏り不安定 - 受け身になりがち、考えなくても聞き流せる

オンラインでも十分可能

予習・復習、発問、考える時間、小テストなどを取り入れる、資料の工夫が必要
「わかる」から「できる」へ

38

研修の形態と特徴（演習・グループワーク）

長 所	短 所
• テーマについて意見、知識、経験の交換ができる • 話し合うことで知識と自己の経験とを結び付けられる • 学習者が自発的、能動的、主体的に参加できる • 知識を活用し話し合うことで学習効果が高まる • 考えが拡がり、深められる • 目的に応じ展開方法はいかようにも工夫できる • 協力して共通の価値ある結論を出せる • 問題解決能力、批判的思考力、自己教育力、コミュニケーション能力などの習得に有効	• 危険に遭遇することも（安全確保、人権擁護が必要） • 嫌悪感、不全感を抱くことも、さぼる人も • 強い意見に引っ張られ、弱い意見が無視されることも • 「楽しかった」などの感想に終始してしまうことも • 目的を明確に共有できないと、わけのわからないうちに終わってしまう（軌道修正が必要） • ファシリテーターの育成、事前打ち合わせが必要、重要

話し合いだけであれば、
オンラインでも十分可能

研修の形態と特徴（演習・ロールプレイ）

長 所	短 所
• 疑似体験を通じて、実際に経験を積むに近い効果 • 自分の言動の特徴（強み、弱点）に気づくことができる • 現実と同様の場面に遭遇したときに対処可能に • 相談者役、相談員役、観察者役などをする ことで、立場や考え方の理解が深まる • コミュニケーション能力の向上に効果	• 繰り返すことが必要 • 気持ちを込めて演じないと効果的にならない

オンラインの特性・限界を
理解した上であれば可能

→ 役柄、状況設定などの「場」の設定が重要
演技力、フィードバックの工夫

オンライン研修の長所・短所

長 所

- 端末と通信環境があれば**場所を問わず参加可能**
- 県外の受講者も容易に受け入れ可能
- Web会議システムの契約、機材、環境、人員が整っていれば、**運営コストが抑えられる**ことも
- 講義配信だけなら定員をいくらでも増やせる
- 配信すれば、いつでも、どこでも聴講可能
- 録画講義のライブ配信も、リアルタイムの講義も可能
- チャット機能で**当日のファイルの共有が容易**
- チャット機能で質問数が増加
- グループワークは、集合型よりフラットで**対等なやりとり**が可能、他のグループが気にならない、**親近感あり、発言しやすい**

短 所

- 場所を問わず参加でき、**映り込みや雑音**（館内放送、外の騒音）が生じる
- **ながら受講**ができてしまう
- 通信環境や端末、個室を整える必要がある
- 通信が途切れる可能性がある
- **パソコン操作に時間を要す**
- **相互交流ができない**（名刺交換ができない）
- 長時間になると目・肩が疲労する

41

オンライン研修企画は「二重構造」

オンライン化の準備

① Web会議システムのダウンロード、アカウント登録、有料契約

② **複数人で複数回、複数のデバイス**（PC、タブレット等）を使って**試し、慣れる**

【ポイント】

- ❑ ミーティングID・パスコード取得
- ❑ マイク・ビデオのテスト、ON /OFFの練習
- ❑ 画面共有、チャット、挙手、反応、ミュート、録音・録画、ブレイクアウトルームなど機能の練習
- ❑ 受講者の名前変更

③ ファシリ・講師と事前打ち合わせ（必要時複数回）

④ 研修当日（音声、画面共有などの最終確認）

研修企画（内容）の準備

① 研修企画立案、ファシリテーター打診

② 講師交渉、打合せ、研修内容の調整

③ 広報、受講者募集開始

④ 募集締め切り、受講決定、グループ分け名簿作成

⑤ ファシリ・講師と事前打合せ（必要時複数回）

⑥ （ Web ） アンケート作成

⑦ 受講者等へ配布資料、ミーティングIDなど送付

⑧ 研修当日

⑨ アンケート集計、研修評価、報告、引継ぎ…

同時に

42

オンライン開催に必要な機材、環境、人員など

■ WEB会議システムのアカウント登録、契約

- ・ 既存のアカウント登録の確認
- ・ 契約プランの確認（参加可能人数）

■ 機材

①パソコン

- ・ ホスト用1台（必須）
- ・ 使用するパソコンの**アップデート**



②マイク・スピーカー（ヘッドセット）

- ・ 同一室内で複数名が参加する場合は、ハウリングなどが生じる。発言時のノイズの面からもヘッドセットもしくはマイク付きイヤホンの使用を強く推奨



③ウェブカメラ

- ・ ノートPC内蔵のカメラでOK
- ・ 内蔵されていない場合は、ウェブカメラを準備



■ 環境



⑤インターネット環境

- ・ 無線LAN（Wi-Fi）でも可能。有線が推奨。バックアップ回線があると安心
- ・ Wi-Fiは使用環境により不安定になる

⑥静かで集中できる会議室、個室など

- ・ 他の人が出入りしない静かな環境が推奨
- ・ ヘッドセット使用、ノイズ除去設定（高）

■ テクニカル担当

⑦パソコンやWeb会議システムに慣れた人に協力を得る

- ・ パソコンに精通し、Web会議システムの経験者（事務員などの他職種やシステム管理課など）の協力が得られると安心。ホストとしてWeb会議システム操作に専念する人を1人おく
- ・ ホスト1名、補佐役の共同ホスト1～2名を確保し、感染対策の上、同じ部屋で相談しながら運営できると安心



43

オンライン グループワーク（BR）の留意点

メリット

- ・ 他のグループの進捗が気にならず、自分たちのワークに集中できる
- ・ メンバー全員の表情、様子を確認しやすく、ファシリテートしやすい

留意点

- ・ **会話（言葉のやりとり）中心となる**
- ・ **メンバーの意や雰囲気を感じにくい**
→発言のタイミングがわからない
- ・ **グループダイナミクスが発生しにくい**
- ・ **グループの一体感が得られにくい**
- ・ 集合の時のような模造紙、付箋を活用した論点整理や成果物作成が困難
- ・ 集合と同レベルの成果（議論の深まり、成果物作成）を求めすぎない

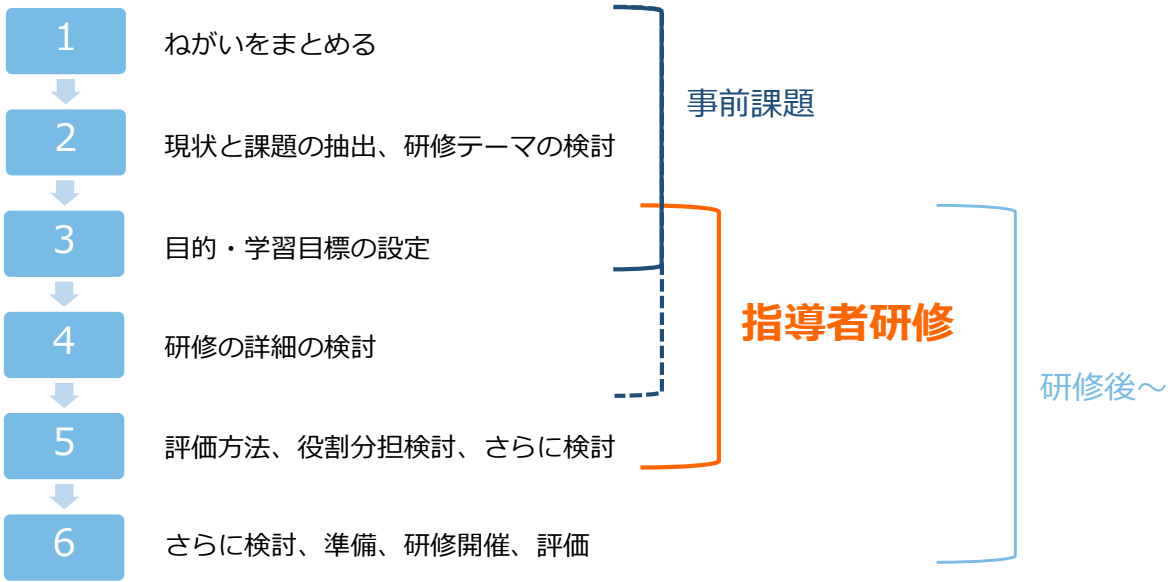
工夫

- ・ **ファシリテーターを配置し事前によく打ち合わせ**
- ・ **アイスブレイクで場を温め**
- ・ **ルールを設定**
 - ✓ **うなずき**、発言、ジェスチャー、拍手、挙手を積極的に、表情豊かに
 - ✓ 意見がないことも言語やジェスチャーで
- ・ **ワークのテーマはシンプルに、目的、時間を明確に**
- ・ 講義配信とグループワークの組み合わせで学習効果向上
- ・ ゆとりある時間設定
- ・ 通信が途切れたら、落ち着いて再入室
- ・ 退室したメンバーの役割を残ったメンバーで補完



44

研修企画のステップ



がん対策研究所で提供可能な教材など

① 医療関係者向け

② 医療支援・相談支援

③ 国指定がん診療連携拠点病院等サポート

④ 地域研修開催サポート

指導者研修修了者 (のみ) 提供中
ユーザー名 : kyoten
パスワード : cisc



- 音声事例教材
- 映像事例教材
- 基礎研修（3）講義資料
- QA研修講義資料一式
- 研修企画コンサルテーション
- オンライン型研修会主催者向けサポート
- Ⅲ群登録申請のご案内

参考文献

- J.S.ブルーナー：鈴木祥蔵他訳（1963）：教育の過程, 岩波書店.
- Oermann,M.H.et al:舟島なをみ監訳（2001）：看護学教育における講義・演習・実習の評価,医学書院.
- 舟島なをみ監修（2020）：看護学教育における授業展開第2版, 一質の高い講義・演習・実習の実現に向けてー, 医学書院.
- 舟島なをみ監修（2015）：院内教育プログラムの立案・実施・評価, 医学書院.
- 鈴木克明（2015）：研修設計マニュアル-人材育成のためのインストラクショナルナルデザイン-, 北大路書房.
- 田邊政裕編著（2013）：アウトカム基盤型教育の理論と実践, 篠原出版新社.
- 中原淳, 島村公俊他著（2023）：研修開発入門「研修転移」の理論と実践, ダイヤモンド社.

ご清聴ありがとうございました。
皆様の研修企画のご提出を楽しみにしております。